

AA

日本ニューズレター No.92

## 2002年2月9日 第7回AA日本全国評議会開催！東京深川ホテル「B&G」 —30周年記念大会は2005年に九州・沖縄地域での開催が決まる—

テーマ「全体サービスと一体性」をもって幕を開けた評議会の一部を報告すると共に、全国のメンバーと問題点について一緒に考えてみたい。

全国7地域からそれぞれの良心を付託された20名の評議員とノンアルコール常任理事2名、アルコール常任理事5名、WSM評議員2名、JSOスタッフ3名が優れた事務能力を持った事務局のオリエンテーションを受け2日半の熱い討議に入った。毎年のものであるが、会議の円滑な運営に関しての事務局・書記団からの貢献には、感謝の言葉を見つけることができないほど。心からありがとうとご苦労様を贈らせていただく。(報告書作成が残っているがどうぞよろしく)7日に開催された国際シンポジウムに引き続きアメリカ・カナダ常任理事会B類常任理事のアレック・P氏をオブザーバーに迎え、二日目にスピーチを貰った。またシンポジウムの主賓のヴァリアント先生からも最終日にご挨拶をいただいた。内容については後に述べることで、今回の評議会は少し今までと雰囲気違ったように思える。

いくつかの地域からオブザーバーが数多く参加、傍聴をしていた。今、日本のAA全体サービスに何か求められているような気を感じた。テーマに掲げた一体性について各地域はどう感じているのだろうか。伝統1に則った原理がつかわれているだろうか。それぞれの回復と全体の福利との関わりをもう一度考えることが必要ではないだろうか。

今後のAAにとって大切な30周年記念行事の開催地が九州・沖縄地域に決定した。また2003年度のサービスフォーラムも九州・沖縄地域の開催となった。

全国のメンバーの熱い思いが2005年の30周年記念大会へ向けて集結して行くことと思う。

2002年度のテーマは「グループと評議会・全体サービスの棚卸」に決定し、メンバー、グループそれぞれが自分自身を見つめなおして行くことを確認されたのだと感じた。

それぞれの分科会において活発な討議が行われ、報告や決議事項が全体会議に送られた。10日の午後から始まった全体会議の中で、熱い議論を展開し、先に紹介した記念大会の決定や勧告決議が採択されていった。翌日の朝、ヴァリアント先生から挨拶をもらい、その後さらに分科会報告が続けられた。会議の様子は数ヵ月後に出る報告書を楽しみに、また評議員からの報告や分かち合いがもたれることと考えるので、省かせてもらう。

ここで二つ皆様にお伝えしたい。

まず、最初はアレックス氏から提案があったメッセ・ジの伝え方を少し述べ、メンバーと一緒に考えて行ければと思う。

「AAのメッセ・ジとはなんですか？ミーティング場にやってきた新しい人にAAプログラムを通して回復した経験を分かち合うことではないのですか。プログラムの実践によ

って続けられたソーバーの経験を伝えて行くことがAAのメッセ・ジだということでしょう。」そのとおりだと思う。

「AAにはじめてやってきた人たちは、色々な不安の中でここは自分がいられる場所だと感じ取り、仲間の正直な話の中に希望と共感を見つけることができる。このように伝えることのできる経験を持つ人たちがグループの中にどれだけいるのか。AAのことわざに「耳栓を外して口に栓をしなさい」ということがあるそうだ。また、神様は、口はひとつしか与えてくれなかったのに、耳を二つも与えてくれたのはたくさん聴くことができるようにという配慮からだそうだ。新しくやってきた人にできるだけ多くの回復の経験に耳を傾けてもらうには、経験ある人たちにはその経験を伝える責任があるのではないだろうか」そのとおりだと思う。

日々の暮らしの中で起こる様々なトラブルに対してもAAのプログラムはスポンサーという対処方法を提示してくれている。アルコールにとって自分の話を聞いてもらえる場所、人は不可欠のものであるのだから、ただしミーティング場には一体性という原理が働くのではないだろうか。

日本のAAも26年の経験を持った。この経験を大切にしていきたいと思う。方法は色々あると考えられるのでそれぞれのグループ、地区、地域でもう一度AAの経験を延べ伝えることを始めることを提案したい。

もう一つはヴァリアント先生からお話があったことの中で、大切なことがあった。

1. 皆さんが自分のアノニミティを取り払って自分の主治医にAAで回復していることを伝えてくれていること(自分の主治医に12番目のステップをしてくれていること)に感謝している。

2. そのアノニミティの垣根を、あらゆるところで取り払っていただけたら強力なメッセ・ジになると思う。たとえば、かかりつけのファミリードクターとか、外科医とか、小児科医とか、あらゆる機会をとらえて自分がAAで回復していることを伝えていただくことで、「回復が可能だという希望」を医療者に与えることができると思う。

3. 11番目のアノニミティの伝統は、あくまでもマスメディアと公の集まりでは名前を出さないということを言っているのである。

このような要旨でA類常任理事として経験を分かち合っていたいただいた。

お二人のスピーチは報告書に掲載されるが、ぜひグループで活用してほしい。

最後に評議会開催の様々、表面には出てこないボランティアサービス(このサービスがなければ評議会は成り立たないであろう)にもう一度感謝の言葉を贈らせていただく。

「ありがとうございました！」 JSO 野崎

## 日本のサービス機構を考え直しませんか？

関西地域：元評議員 八木

私は1996年に第1回全国評議会での決議事項「日本に合ったサービスマニュアルを作る」という目的のために全国の担当委員と担当常任理事とともに約1年にわたり、「AA日本サービスガイド」の編纂に関わりました。その中では日本のサービス構成について様々なことが討論されましたが、とりわけ大きかった事はセントラルオフィス全体サービス評議会機構から外すということでした。「サービスマニュアル」にも「AAグループ」にも全体サービスとは別の機能だとあります。私たちは何度も議論をし、日本のサービス機構は「サービスマニュアル」を目標にするというGSMでの決議も考慮し、セントラルオフィス(以下よりCO.)を全体サービス評議会機構から外すという選択は正しいと判断しました。「サービスマニュアル」にないものを組み込むわけにはいかないからです。しかし、私には釈然としないものがずっとくすぶり続けていました。それは、どうして外す？なぜ入らないのか？という単純な疑問でした。

日本の全体サービス機構の中で地域委員会・地区委員会・各AAグループはCO.に対して実務代行をかなりの部分でお願いしていることを考えれば日本の全体サービスの中でセントラルオフィスが全体サービスに関して果たしている機能はかなり重要な存在であるにも関わらずなぜ外すのかわからなかったのです。「サービスマニュアル」や「AAグループ」に書かれてあることと現実のフィールドを見ると日本の現状に複雑さを感じる気持ちは否めませんでした。その頃から「もしかしたら日本のAAはどこか根幹のところの間違っているのではないか？」という疑問は消えることがありませんでした。またメンバーの意識にも12ステップ活動そのものである病院メッセージからセントラルオフィスボランティア、代議員、地区委員をすることまで、それらをひとつくりにして何もかもを「サービス」としてとらえていることへも疑問でした。CO.に代議員登録する事の矛盾、委員会報告書を発送代行してもらうこと、各地区委員会がグループの日常の問題を分かち合う場に終始し、全体サービスに関する話し合いがほとんどないまま続けられている現状、地域内でのサービスの実行部隊である各サービス委員会が機能しないまま続けられている地域委員会の存在などなど。私の疑問が確信に変わったのはアメリカカナダの「インターグループ・セントラルオフィス」(以下IG/CO.)の翻訳資料を読んだことがきっかけでした。そこには私が読んだAAの書籍と同じステップと伝統と一体性が息づいており、12ステップ活動とグループ活動、セントラルオフィスのサービス、そして全体サービスが実にシンプルに活動している様がありました。それは私達日本のメンバーが考えてきたサービス、セントラルオフィスのあり方とはまったく違うものがありました。それこそ、私が釈然としなかった事への答えでありAAプログラムのシンプルな提案そのものだったのです。アメリカカナダでのインターグループ・セントラルオフィスは日本のような「地域のAAのあらゆる拠点」ではなく、メンバーやグループがインターグループ、セントラルオフィスのサービスを受けたいと望むグループやメンバーによって運営される「12ステップコール」の拠点なのです。IG/COは私達に12番目のステップ活動のチャンスを提供してくれます。苦しんでいるアルコールからの12ステップコールに応えるチャンスがもらえるのです。アルコールにAAのメッセージを伝えられるのです。IG/COの存在意義はまさにここにあります。だからこそ伝統の8、9がある。自分自身が飲まないで生き続ける

には今、苦しんでいるアルコールにメッセージを運ぶ続ける必要がある。というこのAAの原理が意味することは、まさにステップにある回復の神髄であり、それこそがソプラエティ＝「飲まないで生きて、今、苦しんでいるアルコールにメッセージを伝えること」だと思ふのです。そのためにIG/COのサービスを受けたい個人・グループは献金とボランティアでその業務を支える必要があるわけです。

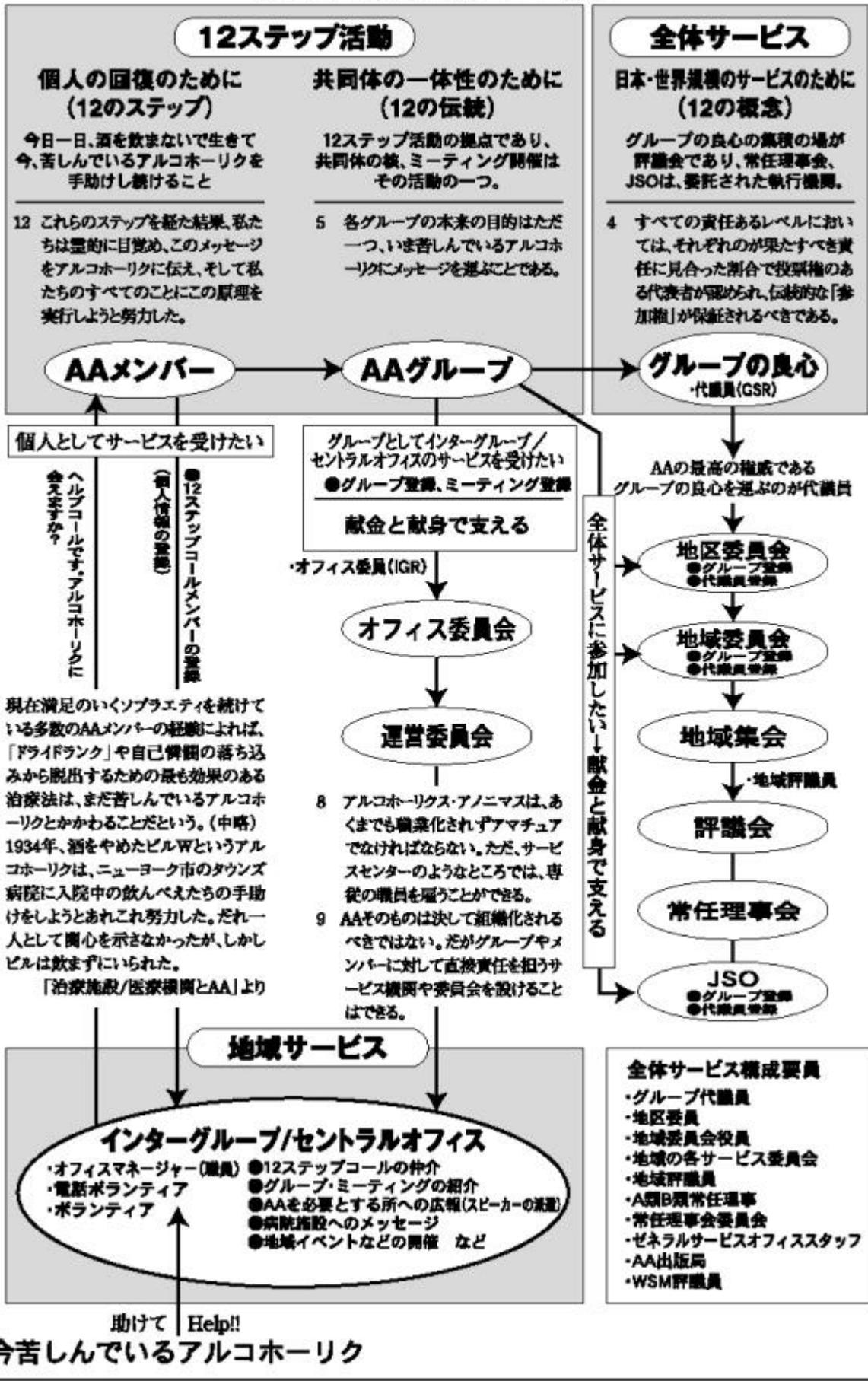
アメリカカナダの全IG/COでは地区・地域委員会の代行のようなことをやっている所はゼロだと言います。地域委員会はIG/COとは別に活動をする、その活動は全体サービスの活動です。グループのオフィス委員(IGR)はオフィス運営に関する意見をオフィス委員会で集約し運営委員会がその実務に反映します。グループの代議員はグループで討議した全体サービスの意見(グループの良心)を地区委員会に反映させ、地域委員会・地域集会を通じて評議員により評議会で検討されます。地域の要(ぜんまい)の地域委員会がその機能を果たせていないとしたら、グループの良心は確実に評議会に届けられませんが、グループのメンバーの意識が評議会につながっていないなら、評議会は機能しなくなります。私は、この「ゼネラルサービスとIG/COのサービスはまったく違うもの」という観点に立ったとき、日本のセントラルオフィスありき、あるいは拠点という考えがAAそのものの発展をAA自らが疎外しているような気がしてなりません。

またアメリカカナダのIG/COの運営委員会にはノンアルコールの運営委員は1人もいません(ニューヨークGSOの調査による)。理由はシンプルです。苦しんでいるアルコールにAAのメッセージを伝えられるのはビルが言うとおり、AAメンバーに与えられた特権であり、使命であり、責任であるからです。IG/COは12ステップコールの仲介が大きな役割なのでAAメンバーではない人に12ステップ活動ができるか？IG/COは12ステップコールの仲介が大きな役割なのでAAのメッセージを運べない人がどうやって運営できるのか？自明の理ではないでしょうか？その人たちにはAAの友人としてしていただけることがもっと他にたくさんあると私は信じています。

私はIG/COが本来の機能に戻ったとき、地区委員会・地域委員会が全体サービスのことにのみ終始するとき評議会は本来の機能を発揮すると思います。常任理事会からのトップダウンというような発言を時折、耳にすると、地域の要のグループ代議員は全体サービスに対しグループの良心を地区に反映させているか？地区はそのための活動に終始しているか？地域の委員会がそれらを協議し地域内でのサービス委員会が機能しているか？それらが機能していれば私は「トップダウン」という考えは起きないと思います。つまり責任は全グループ、全地区委員会、全地域委員会にもあると思うのです。

IG/COのサービスと全体サービスを分けること、その時に初めて両方が存在の真価発揮できるように思います。私がここに書いたのは単にサービス機構を整備する、いわば体裁を整えようという提案ではありません。思い出してください。私の責任という言葉。「誰かが、どこかで助けを求めたら必ずそこにAAの(愛の)手があるようにしたい。それは私の責任だ。」今のままの日本のサービス体系ではそれぞれが私の責任を果たせないと思うのです。それは苦しんでいるアルコールを確実に手助けできず、私達の共同体が衰退することを意味します。今、日本中の全グループで、地区で、地域で、棚卸しをする必要があると思います。つたない図解ですが私の愚文を図解にしてみました。それぞれのサービスの分野での話し合いの一助になれば幸いです。

### AAの三つのレガシー=三角形



2月7日に東京・国立公衆衛生院で国際シンポジウムが開催された。専門家の皆様へのニューズレター9号でご紹介したアメリカ・カナダ常任理事会・A類常任理事 ヴァリアント先生を中心にAA日本常任理事会・A類常任理事、田辺等先生、平野かよ子先生、アメリカ・カナダB類常任理事アレック氏の協力を得て、日本常任理事会・広報委員会が関係者への広報活動の一つとして企画し開催されたものである。

このシンポジウムの実施にあたり、お手伝いをいただいたメンバーにコメントをもらっているのでご紹介させていただきます。

### 国際シンポジウムの感想



今回の国際シンポジウムにおいて、アメリカ・カナダのA類・B類常任理事の話の直に聞き、通訳するチャンスを与えてもらったことに感謝します。ハーバード大学の著名な先生と経験豊富なアルコールのそれぞれ違う観点の話から、アルコールに対する私たち人間の無力さ、そしてAAプログラムの力と愛が参加して下さった専門家たちに対してうまく伝わったと思います。

また、AAメンバーとして自分が日常生活において専門家協力委員の大事な責任を担っていることも痛感しました。過剰なアノニミティーを守ることによって私たちの友人である専門家に対してAAの誤った印象を与えてはいけなく、そして伝統11番を正しく実践したいなと思いました。

大崎ビッグブックグループ ジェームズ・O

素晴らしいチャンスを頂いてありがとうございます！！

ヴァリアント先生は、AAの効果を科学的に説明していました。以前散々AAはどうして効くのか考え、いつしか効くんだからいいやと思うようになってしまったけれど、改めてこの話を聞いて嬉しかったな、私は。一番印象的だったのは、会場からの質問に対する受け答えの姿勢でした。説明できないけど、素晴らしい人たちだと感動しました。そこからは“誠実”“思いやり”“謙虚”の本物に触れた感じがしました。“この人たちの持っているものを手に入れるためなら何でもする”という気持ちにさせてもらえました。この機会を与えて下さった全てに感謝しています。

名城グループ マナ

今回ボランティアとして参加させて頂いた。Drヴァリアントはとても高名な方と聞く。そのような「偉い方」が、AAという一共同体のA類理事になぜ？という思えば非常に貧しい疑問を抱きつつ当日。関係者受付という大役でお話は聞けなかったが、翌日の久里浜講演にそのチャンスを頂き、私の疑問は取り払われたように思う。それはAAという共同体とそのプログラムの持つ力の偉大さだ。お話を伺って心から私達の共同体への大きな理解を感じ、私自身がその中の一メンバーである事に誇りを持たせて頂いた。飲んでいた過去を経験とする力をアレックスさんからも頂いたように思う。とてつもない経験をさせて頂いたことに感謝しています。

湘南グループ たよ

昨年8月に来日されたGSOのグレッグ所長ら、11月には同じくGSO職員のビル・アーチャーらの来日に続き、今回もアメリカ/カナダからA類常任理事ジョージ・E・ヴァリアント、B類常任理事アレックス・Pが来日して頂けるという事でいそいそと出かけて行きました。以前の私は全くと言って良いほど外国人との接点を持つことは無かったのに、AAに繋がったお陰で国境を越えて多くのAAを愛する人々に巡り会う機会を頂き感謝の気持ちで一杯です。歩き出した頃、AAの『一体性』というものを自分から見える部分の小さな小さな範囲だけで捉えていたものが、多くの人達との出会いの中で徐々に膨らんで行き、今では自分が時空を越えたAAの『一体性』という大きな愛に包まれているのを感じます。

江戸川グループ 栄作

#### 回復・サービス・一体性

言葉でいえば簡単なことだが去年、今年とこの言葉をありのままに伝えてくれたメンバー達(アメリカ・カナダより来日された)の姿にAAの偉大さを感じた。今回日本を訪れたアレックさんとはミネアポリス大会後の再会である。コンヴェンションでの19年のスリップのお話が印象深く、お会いできたことに驚きと嬉しさがあった。A類常任理事のヴァリアント先生のお話も楽しみでしたが、期待通りでユーモアを交えたお話にとて親近感を感じることができました。先生がAAを愛していることが良くわかりました。今回のシンポジウムに参加できた喜びを素直に伝えて行くことができればと思っています。

赤羽グループ カツ

2月7日(木)「国際シンポジウム」に参加し、受付をやらせて頂き驚いた事があります。それは、参加者の中にメンバーでも関係者でも無く、「人に愛められたから」「広報で知って興味があったから……」と参加された方達の存在です。外見からも「何か問題を抱えているなあ」と感じるものがあり、今回の講演はそれだけでも「私達の目的」を改めて認識できる効果があったものだと思います。また不足がちになっている「関係者へのメッセージ」をアメリカカナダA・B類常任理事の「良心」と共に伝えられた事は、とても大きな経験になったと思います。AAの「経験と力と希望の分ち合い」が会場から熱気となって伝わってくるそんなシンポジウムでした。次回は、「個人の経験の分ち合い」で日々のMTの中で表されるハイヤパワーをメンバー以外の方達に感じてもらい、AAの確信を伝えられたらと思いを巡らせました。

関東甲信越地域評議員 荒井

## AA日本ニューズレターNo. 92

編集・発行：AA日本ゼネラルサービスオフィス(JSO) 〒171-0014 東京都豊島区池袋 4-17-10 土屋ビル4F

TEL:03-3590-5377 FAX:03-3590-5419 ホームページ <http://www.cam.hi-ho.ne.jp/aa-jso/>